

情報連絡員報告を中心とした

県内の中小企業動向

7月

豆腐製造

全国的には景況は好転しつつあるという声も聞かれるが、当組合としては、まだ変わらない。

めん類製造

ご当地麺が再び注目を集めている。ジャンルを考えると幅が広いのだが、当組合でも「ご当地ラーメン」をテーマに研修会を予定。

牛乳小売

景気回復の糸口見えないまま厳しい状況が続く。業界の動きとして、雪印乳業が茨城県の阿見東部工業団地に11ヘクタールを取得。

シャツ製造

昨年の7月と比べるとかなり悪くなっている。店頭在庫は少ないが物を生産していないがため。

製材

個人消費の低迷等の影響により、木材業界は相変わらず厳しい状況が続いている。

印刷

7月の売上高は6月と比較して各社増減まちまちのようだが、総体的には引き続きマイナス。

生コン製造

マンシヨン、流通設備が少しずつ具体的に動きました。未だ本格的ではないが、少しずつ先が見えてきた感がある。

新TIS改正に伴い、品質管理の徹底、需要の減少もあり、経営上厳しい面もあるが、合理化対策等を行い、維持している。

電機鍍金業

景況は依然として、一進一退。

鉄工業

組合員企業各社の業況に特段の変化は見られないが、現状はリーマンショック以前の水準対比で6〜7割程度の稼働に止まっており、さらなる回復に期待を寄せている。

機械部品製造

一部を除き、操業度が急に下がり、深刻な状況に逆戻りの状況。回復傾向が、逆戻りの状況。

機械部品製造

厳しい状況のなか上向きになってきていると思われるが、決して好調とは言えない状況。業界の動きについては、一段と強い円高傾向になり、為替での影響がある。

採石業

京浜3港のハブ化を目指す一つである横浜港南本牧コンテナ埠頭増

設工事や東京都の最終処分場造成

工事に期待をかけている。

総合卸売

猛暑の影響から、洗剤、制汗剤、防虫・殺虫剤の出荷が例年に比べ増加。飲料関係も出荷増加しているが、量的には低価格の第3のピールのウエイトが高い。売上は、対前年同期比で若干増加。

自動車解体業

入荷はまあまあ。スクラップインセンティブ、減税効果があり、新車販売が順調により、素材価格は円高の影響もあり低迷模様。

小売

梅雨明けとともに、暑い日が続き、軽衣料品が売れているが、消費者の購買意欲は依然低く、高額商品は売れていない。

電気機器小売

地デジ化、梅雨明け後の猛暑の影響で前年比2倍以上の売上を確保している模様。アナログ停波1年前キャンペーンを千葉駅前で総務省始め関係機関、千葉県電機商業組合で盛大に実施した。

青果小売

雨が降らずイベント等も予定通り行われ、売上をやや押し上げた。

小売

一進一退。業種としては飲食苦戦が続いている。生鮮産品は不調。

中古車仕入・販売

直販、天候不順が直撃。政治経済の両面でユーザーが好ましい明るさや強気な購買に転じるきっかけがつかみにくいばかりか全面的に揺れ動き、マイナスモードに。

小売

暑い日が続き7月に入り夏物売上が増加した。食品関係は、価格の低下による競合店とのセーリングに。来店客は居るのに購買行動が減退している感がある。

小売

夏休みに入り、子供連れの来店ファミリーが増加した。猛暑の影響か、今年は特に丑の日の鰻の売上が好調だった。

農業機械販売整備

民主党の農政が戸別補償制度のみに集約され、87項目の仕分けのマイナス影響が農家の生産意欲の減退となり、野菜は卸値で40%UP。小売値で前年比30%UPにもかかわらず、農機の新規需要は停滞し、特に新品農機の需要は会員の総売り上げの中で、ついに60%を切るに至っている。

小売・サービス

ポータス月だから良いということも全くなかった。麗澤大学の学生とのコラボ事業立ち上げるべく第1回の勉強会を実施。コラボチーム名をつけて夏休み明けから本格的な事業計画を決めていく予定。

一般廃棄物処理

前月の景況がかなり落込んでいたこともあるが、今月はとても良い結果に。前年同月比で若干好転。

土木建築サービス業

厳しい現状に変化なし。業界の動きとして、わずかではあるが新しい事業の受注見込が予想される。

ソフトウェア業

依然、厳しい状況だが、一部の組合員はわずかに明るさを感じられるようになってきている模様。

建設業

市町村と国からの受注は大幅に増えたものの、入札価格については80%前後とかなり利益が出るかというところ。

貨物運送

7月に入り気温が上昇したお陰で様々な商品の動きが活発化。売上は、前月比・前年同月比とも上昇し、本年度に入り売上は少しずつ回復している。